

21世紀における技術の役割

おで かずや
尾出 和也

電力中央研究所 名誉特別顧問／元電気学会会長



蒸気機関の発明に代表される技術の進歩が、産業革命を成功に導いたといわれているが、この数世紀にわたる技術の進歩はまことに目ざましいものがあり、さまざまな形で社会に大きなインパクトを与えた。

その中で20世紀、第一にあげられるのはなんといっても飛行機であり、ロケットの発明であろう。空を飛びたい、月に行きたいという長い間の人間の夢がついに実現したのである。

この他にも原子力の利用、コンピュータに代表される様々な電子技術の進歩などあげればきりがないが、これら技術の進歩は人間の生活様式を変え、経済システムを変え、社会のあり方を変えた。そして人間の進歩発展に大きく貢献したが、ただ残念なことに技術が進歩するにつれ功即ち十の面だけでなく罪即ち一の面も目立つようになってきた。

その一つは原子爆弾のような大量殺人をともなう軍事利用であり、もう一つは自然破壊、環境破壊そして資源エネルギーの濫費である。

リンダバーグ、彼は1927年、今から70年も前になるが初めてニューヨークからパリまで大西洋横断飛行に成功し、「翼よ、あれがパリーの灯だ」という本を著した空の英雄で、飛行機が広島、長崎の原爆投下に使われたとき、「飛行機は本来人と人とのかけ橋となるべき役割をもっていた筈だが、それが人殺しの扱い手になってしまった」といっていたく嘆かれたという。

飛行機のみならず技術の成果物がこういうことに利用されるのは決して許されるべきでない。

哲学者として有名なプラトンは技術の具備すべき条件としてつぎの二つをあげている。

- ・はっきり理論的に説明できること
- ・善を目指すべきこと

特にこの第2の項目は最も重要な事柄であるにも拘わらず、とかく忘れ勝ちで、このため間違った方向に技術が使われたことも少なくない。

しかしこれからはこのような過ちを犯すことなく、真に

人間のために役立てる技術の開発、技術の利用を考えるべきではないか。

しからばこれから的新しい世紀、21世紀にむかって技術は具体的にどんな役割を果たしたらよいのか。どんな役割が期待されるのであろうか。

21世紀にむかって世界の直面している重大な課題は何か、我々人間にとて何が一番問題なのか。その問題の解決のために技術を役立てる。これこそが最も期待される技術の役割ではなかろうか。

例えば21世紀にむかって世界の人口は途上国を中心に爆発的に増加するといわれている。この人口問題。そしてその人々が食を得るために、少しでも豊かになるために必要な経済成長、それを支える資源、エネルギー消費の増大、それによって生ずる地球規模の環境問題、これらは鎖鎖的であると同時に、お互いに相容れない相反的な現象であり、これは解決の糸口のつかめない、まかり間違えば人類の存続すら危くしかねない21世紀最大の課題とさえいわれている。

このような難しい問題の解決にこそ技術が役立つ時ではないだろうか。

今までの技術は物を創ることに重点があった。しかしこれからは単に物を創ることだけでなく、技術の力によって時代の直面している大きな課題を克服し、これによって新しい時代を創りあげる、まさに新しい時代を創造するという大きな役割を果すべきではないかと思う。

「科学技術基本法」に日本は21世紀にむけて「科学技術創造立国」として科学技術の振興を強力に推進することを謳っている。その目標に“技術の力によって新しい時代を創造する”という壮大な目標を掲げ、世界に魁て日本がこれに挑戦したらどうか。このことは技術者として、そして日本人として人類への素晴らしい貢献であり、こうしてこそはじめて日本が眞の科学技術創造立国といえるのではないかと思う。

これが単に夢として終わらないことを願いつつ、新しい世紀を迎える。